

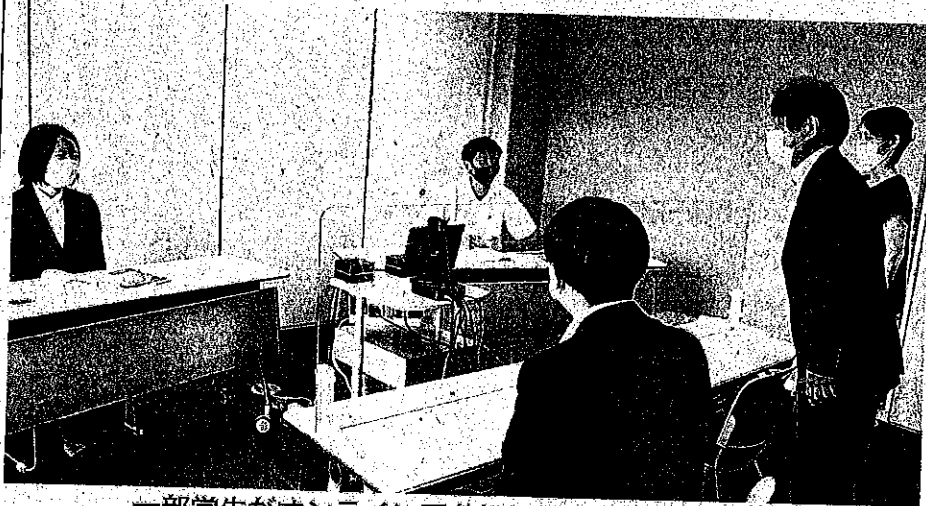
ウイルスコロナ時代 県内ビジネスの今 ソフト開発、住宅メーカーなど

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大学生などを対象にしたオンラインシップをオンラインで実施する事例が県内で増えている。ソフト開発会社が他社の取り組みを支援する例もみられる。

ソフトウエア開発などのエム・エス・アイ（山形市、金子昌弘社長）は2004年以降、外国人を含め330人超の学生を受け入れてきた。就職観や社会力を醸成する「学生と企業の相互教育の場」と捉え、内容の充実を進めている。

敬語の使い方など社会人基礎力のほか、自己分析力、コミュニケーション力、キャリアイメージを描く力を高める課程を用意。地方で働く魅力を伝えることが役割とし、学生も目的、働く目的を考える場面も設ける。働くイメージを明確にできることもあってか、過去10年の内定辞退者、直近3年の新卒採用の離職者

広がるインターンシップのオンライン化



一部学生がオンラインで参加したエム・エス・アイのインターンシップ。他社の取り組みも支援する

＝山形市

業務リモートで実感

がともにゼロだという。感染拡大を受け、6月からインターンシップの動画配信を開始。システム概要の動画を8本配

がともにゼロだという。ムエンシニアやウェブデザイナーの若手が仕事のやりがいを伝える動画や、事業概要の動画を8本配

信し、随時追加している。このほか、9月までに3回実施した来社する形でのインターンシップで、

一部学生のオンライン参加に対応した。このノウハウを県内企業に広げ、複数社が合同でウェブインターンシップを行えるポータルサイトの創設を目指す。前盛直人執行役員は「県内企業のインターンシップの運営レベルを上げること

住宅メーカーのウインドハウス（山形市）は8月、設計部門でもオンラインインターンシップを実施した。県内外の学生3人が一軒家の設計に挑戦。学生の図面の作成状況をライブ映像で同社が確認し、悩んだ場面で助言するなど、コミュニケーションは通常の2、3倍意識した。

た。やり方さえ工夫すれば満足できる結果が得られる」と手応えを語った。酒田市の松山観光バスとウェブ制作などのロゴデザインは、東北公益文科大の5人を受け入れた。学生たちは企画会議をオンラインで十数回重ね、市内の観光地を巡る動画を制作した。リーダーの3名山名流聖さん（20）は「地元への帰省時もオンラインなので会議を継続できた。話の間に取りにくいなどの課題はあったが、直接会えない会議をどう進行し、意見を引き出すかを学べたことも収穫だった」と話した。

雪道の安全を守る 除雪車の出動式

ネクスコ山形事務所 冬の高速道路の安全確保に向け、NEXCO（ネクスコ）東日本山形管理事務所は16日、山形市の同事務所で安全祈願祭と、除雪車や凍結防止剤散布車の出動式を行い、今シーズンの無事故を誓った。

関係者約80人が出席した。神事に続き、同事務所

県写真真展 来

運営委確認 公設

県内最大の公募写真展、県写真展の運営委員会が16日、山形市の山形美術館で開かれ、第55回展（来年2月25日～3月21日予定）は新型コロナウイルスの感染防止策を講じて開催することを確認した。公募規定のうち、作品搬入方法と審査形式を例年と変更する。

阿部直美県写真真連盟会長と菅野滋山形美術館長、県写真展無鑑査認定者の代表

坂本由美子、大坪千絵